

NHO NEW WAVE

vol.48 2023

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

初期研修医・専攻医のためのコミュニケーション情報誌
NHO ニューウェーブ

発行：独立行政法人 国立病院機構 令和5年

PROGRAM

初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 京都医療センター

HOSPITAL

病院クローズアップ

国立病院機構 仙台西多賀病院

REPORT

“若手医師フォーラム”

特集

SPECIAL

良質な医師を育てる研修



国立病院機構

京都医療センター

内科救急NHO-JMECC 指導者講習会

感染制御部長 総合診療科・感染症科長

日本内科学会 JMECC 指導者 講習会ディレクター

小田垣 考雄



国立病院機構

仙台西多賀病院

神経・筋(神経難病) 診療中級研修

パーキンソン病
院長

武田 篤

筋ジストロフィー
内科系診療部長

高橋 俊明

高次機能診療
脳神経内科医長

馬場 徹

特集 「良質な医師を育てる研修」

内科救急NHO-JMECC 指導者講習会

JMECC(ジェイメック:Japanese Medical Emergency Care Course)とは、救急医療に接することの少ない内科医が、心停止時のみならず、緊急を要する急病患者に対応できるよう、日本救急医学会策定の「ICLS」を基礎に、日本内科学会独自の「内科救急」をプログラムに導入した、技術習得を中心とした講習会です。(日本内科学会JMECC設立趣旨より)

NHO-JMECC 指導者講習会で 指導者となり、教えることで、 何倍もの学びを得る。



国立病院機構
京都医療センター
感染制御部長
総合診療科・感染症科長
日本内科学会 JMECC 指導者
講習会ディレクター
小田垣 孝雄

PROFILE

出身地：京都府(兵庫県北部育ち)
出身大学：宮崎医科大学(現・宮崎大学医学部)(1998年卒)
宝物：毎年、最寄りの神社での初詣のお神籤に入っている石を財布に入れて持ち歩いています。今年の石は「ソーダライト」です。
座右の銘：一隅を照らす(私、比叡山をみながら早朝ウォーキングをしています。50歳で始めて13年目に入りました)



日本内科学会認定の内科救急のシミュレーション講習会であり、
内科専門医の資格取得に必修であるJMECC(ジェイメック)。
NHOではJMECC講習会だけではなく、JMECCの指導者を養成する
『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』も実施しています。
JMECC認定のディレクターである京都医療センターの
小田垣孝雄先生に、JMECC指導者講習会やNHOの
“良質な医師を育てる研修”の魅力などについて話を伺いました。

『内科救急NHO-JMECC 指導者講習会』について

2022年11月21日、京都府医療トレーニングセンターにてNHO主催によるJMECCの指導者講習会である『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』を開催し、全国各地のNHO病院から18名の先生方が参加



してくださいました。

JMECC指導者講習会は、JMECCの講習内容の習得ではなく、指導者であるインストラクターの養成を目的とするものです。

この指導者講習会では、JMECC用のテキストや指導要綱を読み込んで理解していることを前提に、指導者としての基本的態度、プレゼンテーションの方法、指導スキルの基本を身につけていただく内容となっています。

2022年11月21日に実施した指導者講習会では、参加していただいた18名の先生方を6人1グループ

として3グループに分け、1グループにつき2名のインストラクター、そして全体をみるディレクター1名による指導を実施しました。

指導者講習では、通常のJMECCと同じ環境で、指導者役と受講者役に分かれ、シミュレーターや医療器具(除細動器、喉頭鏡、注射器など)を用いながら、シナリオに基づいて実際に指導を行っていただきます。その後、良かった点、伸びしろのある点などを参加者全員で振り返りながら共有し、指導者としてのノウハウを獲得していきます。

NHOの“主催”として 開催する意義

NHOでは、2010年からスタートした“良質な医師を育てる研修”のなかの数ある研修の一つとして、2014年からNHO主催によるJMECC講習会を開催し、2015年度からはJMECCの指導者を養成

する『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』も実施しています。

内科専門医の資格認定試験の出願要件の一つに「JMECCの受講実績があること」があり、JMECCが内科専攻医に必修の講習会である以上、内科専門医プログラムの基幹施設は自施設にてJMECCが開催できなければ、研修が円滑に進まない可能性も出てきます。



NHOでは、早期からJMECC認定のディレクターやインストラクターなどの指導者を育成しており、NHOの内科専門医プログラムの基幹施設の多くでJMECC講習会を自

NHOの“良質な医師を育てる研修”(受講料無料・宿泊交通費支給)は、全国のNHO病院の経験豊富なスペシャリストから指導を受けることができ、さらに全国各地からの参加者たちと交流ができるのも魅力。

コロナ禍によってしばらく研修を中止していましたが、現在は感染症対策に十分留意しながら徐々に再開しています。

今回の特集では京都医療センターの『内科救急NHO-JMECC 指導者講習会』(2022年11月21日開催)と仙台西多賀病院の『神経・筋(神経難病)診療中級研修』(2022年11月12日開催)についてレビューします。

前で実施しています。

一方で、指導者を養成するJMECC指導者講習会においては、日本内科学会の主催が基本であり、開催場所が東京都に限定されていることから、北海道や九州、沖縄など遠方のNHO病院から参加するには時間的、空間的制約といった大きなハードルがありました。

NHOでは、これまでのJMECC講習会への参加実績や、指導者講習会を3ブース開催できるだけの指導者講習会認定ディレクター、ブース長、インストラクター資格を有する医師が揃っているということもあり、日本内科学会より承認をいただき、NHOの主催としてJMECC指導者講習会も実施できるようになりました。

これによって、今回の京都府での開催のように各地域でNHO主催による指導者講習会の開催が可能となり、全国各地のNHO病院からも参加しやすくなりました。

現在、NHOにはJMECC認定のディレクターが私を含めて10名。インストラクターは112名います。(2023年2月時点)

“良質な医師を育てる研修”の魅力とは

私自身、これまでJMECCの認定ディレクターとしてJMECC講習会やJMECC指導者講習会に携わり、NHOの全国各地の先生方と交流してきたことで、たくさんの刺激を受け、多くのことを吸収してきました。

NHOの各地域のJMECCのインストラクターやディレクターと講習会を行ってきたことで、それぞれの指導者としての考え方や視点を学ぶことができ、「こういう指導の仕方もあるんだ」と、講習会の度に多くのことを学んでいます。

NHOは北海道から九州、沖縄まで、全国に140もの病院を展開する病院グループです。他の病院グループにはない全国規模の巨大なネットワークが特徴で、急性期から慢性期、さらに政策医療といった一般の病院では経験できない領域まで幅



広い医療を提供しています。NHOの各病院はそれぞれに得意分野をもっており、その分野に精通した経験豊富なスペシャリストたちがいます。“良質な医師を育てる研修”といった合同で若手医師を育てる研修会や、NHOの学会(国立病院総合医学会)など、自院に限らず全国各地のスペシャリストたちからも学べる環境は、NHOならではの大きな魅力でしょう。初期臨床研修や専門医研修、キャリア形成において、自信をもってお勧めできる環境です。

今後のNHOに期待していること

医師教育はon the job trainingが主体ですが、誰からも非難されず安心して失敗できるoff the jobのシミュレーション教育は若手医師の学習機会としてまだまだ重要で、発展途上でもあると思います。大学のようにシミュレーションセンターを備える病院が増えていけばと願っています。

教育は、「知識(あたま)、情熱(こころ)、技能(からだ)」の3つの領域をどのように組み入れていくかが重要です。新型コロナウイルス感染症対策によって、講習会のほとんどがオンラインによるリモート開催になりましたが、体を動かして習得する領域は対面による講習が適しています。

医療シミュレーション講習の教育到達目標は、学習者が実際の現場で正しく行動できることです。受講の翌日から現場で使えるように、①臨床現場に近い環境で、②指導者が学習者の表情やしぐさを細かく観察し、③最適のタイミングで学習者の省察を促すことが重要です。

コロナ禍によって、対面による講習や技術トレーニングによる教

育は縮小、中止されましたが、10年後、20年後の医療の現場で活躍する原石の研磨をもう止めておくことはできません。ここ数年開催が中止されていた他の“良質な医師を育てる研修”もコロナ禍前のように開催され、NHOでの若手医師の研修が活性化することを期待しています。

医学生や若手医師たちへのメッセージ

『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』に参加することは、指導者としてのノウハウはもちろん、医師としての大きなスキルアップにもなるはずです。“Teaching is learning twice over.”(教えることは2度学ぶことである)という格言があるように、JMECCのインストラクターとなり、講習会で指導することで2度学ぶことができ、指導する度に新たな学びがどんどん蓄積されていきます。

JMECCにおける指導者としての役割だけではなく、病院での指導力や医師としてのスキルアップのために、一人でも多くの医師がJMECCの指導者を目指していただけたらと思います。

NHO-JMECC 指導者講習会

NHO 講師

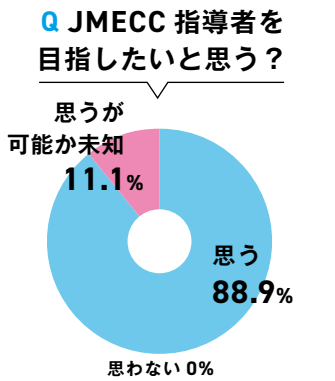
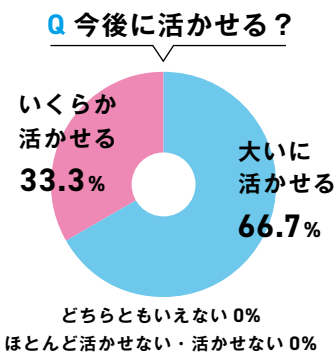
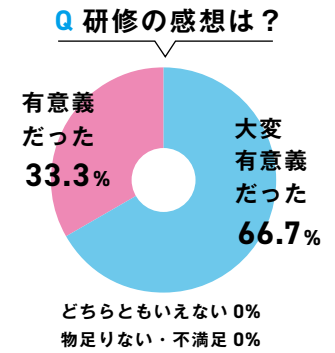
病院名	役職	氏名	役割
京都医療センター	診療部長(感染制御担当)	小田垣 孝雄	ディレクター
東京医療センター	救命救急センター医長	鈴木 亮	インストラクター
京都医療センター	救命救急科医師	田中 博之	インストラクター
大阪南医療センター	腎臓内科医師	大森 弘基	インストラクター
岡山医療センター	救急科医長	宮地 克維	インストラクター
広島西医療センター	副院長	鳥居 剛	インストラクター

SCHEDULE 2023

令和5年度開催予定の「良質な医師を育てる研修」一覧

研修名	開催予定月
病院勤務医に求められる総合内科診療スキル	6月下旬
センスとスキルを身につけろ! 未来を拓く消化器内科セミナー	9月上旬
神経・筋(神経難病)診療中級研修	9月下旬
肺結核・非結核性抗酸菌症・真菌症ー NHOのノウハウを伝える研修	9月
内科救急NHO-JMECC指導者講習会	11月
呼吸器疾患に関する研修	2024年2月
循環器疾患に関する研修	2024年2月
小児疾患・小児救急に関する研修	2024年2月

RESEARCH セミナー参加者の声



神経・筋(神経難病)診療中級研修



講師と全国からの参加者同士の交流による インタラクティブで有意義な研修

NHOが担う政策医療の一つ、神経・筋疾患領域の研修である、

『神経・筋(神経難病)診療中級研修』が2022年11月12日に、仙台西多賀病院にて開催されました。

講義を行った仙台西多賀病院の武田篤院長、内科系診療部長の高橋俊明先生、脳神経内科医長の馬場徹先生に、講義のポイントやNHOの“良質な医師を育てる研修”に参加する意義などについてお話を伺いました。

『神経・筋(神経難病)診療研修』について

武田…『神経・筋(神経難病)診療研修』は、NHOが担う政策医療の一つである神経・筋疾患領域の研修であり、初級・中級・上級といったコースに分けて開催しています。

2022年11月12日に仙台西多賀病院にて開催した『神経・筋(神経難病)診療中級研修』では、中級コースということで神経内科を含むある程度の診療経験がある30代前後の先生方を中心に、NHOの全国各地の病院から10名が参加してくださいました。

高橋…プログラムとしては、朝9時より神経・筋(神経難病)をテーマと



した4つの講義、昼休憩を挟んで午後からは症例ディスカッションを行いました(17時終了)。

講義は一コマ40分で、「パーキンソン病について」(講師:武田篤)、「筋ジストロフィーについて」(講師:高橋俊明)、「高次機能診察について」(講師:馬場徹)、そして東北大学でんかん学分野准教授である神一敬先生を講師に「脳波について」の4つの講義を実施しました。

午後の症例ディスカッションでは、参加者が2つのグループに分かれ、「医療倫理」をテーマに、提示された症例に対して『インフォームドコンセントをどうとるか?』などについて約2時間のディスカッションを行いました。

通常であれば、研修終了後は懇親会による交流や情報交換などを行い、翌日の午前中に追加の講義を行うのですが、新型コロナウイルス感染症対策として、1日のみタイトなスケジュールでの開催となりました。

研修内容や講義のポイント

武田…近年、高齢化の加速に伴いパーキンソン病患者が増加しており、高齢者医療の大きな課題にもなっています。講義では、パーキンソン病における実臨床の場でしばしば遭遇するであろう問題や、最近のトピックスになっている症例をいくつか提示し、診断や治療方針を決める際の注意点などをディスカッションを交えながら学んでいただきました。日常的に遭遇するパーキンソン病の診療のコツをわかりやすく伝えることができたと思います。参加者からのアンケートでも、『非常にわかりやすかった』、『大きな学びを得た』という回答を多くいただきました。

高橋…筋ジストロフィーは難病で治療法がないというイメージが先行していますが、近年、研究の進歩によって新しい薬や治療法の開発がどんどん進められています。そうした現状も知っていただくため

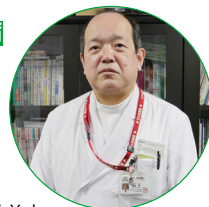
国立病院機構
仙台西多賀病院

パーキンソン病

院長
武田 篤

PROFILE

出身地：青森県弘前市
出身大学：東北大学(1985年卒)
宝 物：医師人生を歩んで築いて来た人脈
座右の銘：Try not to become a man of success, but rather try to become a man of value.



筋ジストロフィー

内科系診療部長
高橋 俊明

PROFILE

出身地：秋田県
出身大学：弘前大学(1993年卒)
宝 物：今までお世話になった方々
座右の銘：人間は考える葦である。



高次機能診察

脳神経内科医長
馬場 徹

PROFILE

出身地：栃木県鹿沼市
出身大学：群馬大学(2003年卒)
宝 物：研究仲間
座右の銘：神は細部に宿る



に最新の治療を中心に講義を行いました。

さらに、当院が東北で初導入(2016年12月)した、歩行障害を改善する医療用下肢タイプロボットスーツ「HAL®」を装着したデモンストレーションも実施しました。本来であれば「筋ジストロフィー病棟」の回診も見学していただきたかったのですが、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策のため断念としました。

馬場…高次機能診察は、脳血管障害や神経変性疾患に起因する言語・思考・記憶などの高次脳機能障害を診察をしていく上で重要なものですが、体系的に教わる機会が少なく、



高次機能診察に対してアレルギーを抱えている若い先生方も多くいます。そのため、シンプルにわかりやすく、エッセンスだけでも覚えていただける講義を意識しました。

講義では、脳血管障害や神経変性疾患に起因するさまざまな症状をわかりやすく理解していただくため、参加者のみなさんに大脳半球の絵を描いていただきながら、脳の各部位がどのような機能を果たしているか、一つひとつ説明を行いました。絵を描きながら学ぶことで理解が深まり、また自分で絵を描きながら説明できるようになることで、さまざまな症状を理解できるようになります。

“良質な医師を育てる研修”の魅力とは

高橋…全国各地から、所属病院も経験もバックグラウンドも異なる参加者の方々が一つの場所に集まり、講義やディスカッションによって、一人ひとりの意見や考え方が集約されていくことで大きな学びを得ることができます。NHOの各病院が得意としている領域を、かなり深いところまで学ぶことができる他にはない貴重な機会であり、若い先生方にはこうした機会を存分に活用してほしいと思います。

武田…今回の研修では、各講義が終わったあとの質疑応答も盛んであり、休憩時間に質問に来られる先生もいました。こうした熱気は講師たちにも影響し、次回の講義にも活かされるなど、“正のスパイラル”も生まれます。

残念ながらコロナ禍によって、2年ほどNHOの“良質な医師を育てる研修”が中止となりました。しかし、今回のように感染症対策に留意しながら再開されたことで、やはり直接対面による研修や講習会だからこそ、講師も含めた参加者同士のインタラクティブで有意義なディスカッションや交流を図ることができ、一方通行の教育公演や動画レ

クチャー、そしてオンライン講習では得られない有意義な学びがあることを改めて実感しました。

馬場…オンラインではない対面の研修では、体系的にスキルや知識を学ぶことができ、直接質問できることや直接交流によって多くの情報を得られますし、より理解を深めることができます。

NHOには、全国各地の病院に経験豊富なスペシャリストがいらしゃいます。NHOの“良質な医師を育てる研修”では、それぞれの分野に深いところまで取り組んでいるスペシャリストたちから直接教わることができ、交流を深めることもできる素晴らしい機会です。積極的に参加して医師としての幅をどんどん広げてください。



医学生や若手医師へのメッセージ

馬場…私が仙台西多賀病院に来て驚いたのは、医師だけではなくメディカルの方も含め、教育に非常に力を入れており、研究発表も盛んであるということ。症例にじっくり向き合い、研究をしながら、医療の質をみんなで高めていくという風土があります。

日々、同じ診療の単調な繰り返しでは医師人生は楽しくありません。NHOには診療や研究を通して、もっと学びたいと思える興味のある分野をどんどん見つけることができる環境があり、長い医師人生を充実したものにするには必ずです。

高橋…NHOの各病院は地域に密着した医療を提供しており、急性期から慢性期までじっくり患者さんを診ることができます。急性期治療後の回復期や慢性期まで一貫して診る機会が少ない大学病院や大きな救急病院とは異なり、NHOには急性期後の医療を担っている病院が多くあり、治療後の患者さんを最後まで診ることができます。

幅広い領域を学べるだけではな

く、NHOの各病院はそれぞれの強みを持っており、特定分野をより深く掘り下げて学べることも大きな魅力でしょう。

武田…医師は患者さんという人間を対象とする仕事であり、自分の全人格を含めた人と人との交流が基本です。医療AIはどんどん進歩しており、最後に残る聖域は、医師という人間であるからこそできる、『説得する』『共感する』『責任を取る』ことです。

NHOには地域に定着した歴史ある病院が多く、各病院の得意とするところは異なりますが、経営面を重視した“数をこなす”診療ではなく、いずれも各地域に必要な医療を追求し、患者さんの目線に立った質の高い医療を目指しています。患者さんとじっくり向き合いながら質の高い診療を学ぶことができるNHOでなら、AIがいくら発達しようとも、将来にわたって活躍できる医師になることができるでしょう。

神経・筋（神経難病）中級研修

NHO 講師

病院名	役職	氏名	役割
仙台西多賀病院	院長	武田 篤	講師 & ファシリテーター
仙台西多賀病院	内科系診療部長	高橋 俊明	講師 & ファシリテーター
仙台西多賀病院	脳神経内科医長	馬場 徹	講師 & ファシリテーター
北海道医療センター	臨床研究部長	新野 正明	ファシリテーター
福島病院	院長	杉浦 嘉泰	ファシリテーター
東埼玉病院	副院長	尾方 克久	ファシリテーター
箱根病院	院長	今井 富裕	ファシリテーター
医王病院	院長	駒井 清暢	ファシリテーター
柳井医療センター	副院長	宮地 隆史	ファシリテーター
沖縄病院	神経内科医長	渡嘉敷 崇	ファシリテーター

SCHEDULE 2023

令和5年度は、9月に箱根病院で開催予定

IMPRESSION

参加した先生の感想

長崎医療センター 専攻医 辻野 耕平

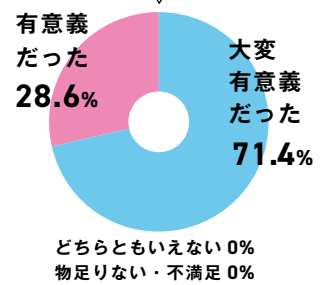


2022年11月12日に仙台で開催された「良質な医師を育てる研修 — 神経・筋 診療中級研修 —」に参加させていただきました。勉強会では高次機能障害、てんかん、パーキンソン症候群などの幅広い内容を、講義だけでなく、ディスカッションやグループワークを交えて学びました。神経・筋疾患で歩行機能が低下した人をサポートするロボットスーツの見学もできました。自分がこれまで身につけた知識・技術をブラッシュアップすることができたと思います。コロナ禍でなかなか対面での勉強会ができない中、同年代の脳神経内科を志す医師たちが集い、切磋琢磨し合うことができ、非常に有意義な研修でした。学んだことを今後の診療に活かしていきたいです。

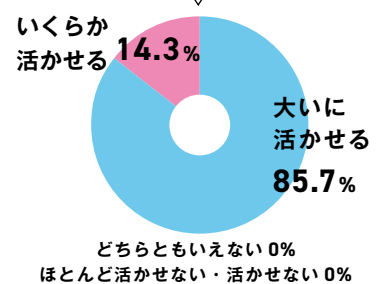
RESEARCH

セミナー参加者の声

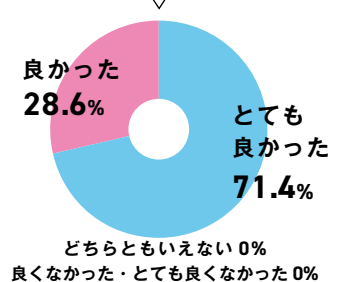
Q 研修の感想は？



Q 今後に活かせる？



Q 集合型の開催形式はいかがでしたか？



初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 京都医療センター

38もの診療科と3次救急施設を擁する環境で、 幅広い臨床能力を獲得。研究活動も盛んです

京都医療センター 教育研修副部長・指導医 小泉 三輝



京都医療センターの 初期臨床研修について

京都医療センターは京都市伏見区に位置し、病床数600床、38診療科、3次救急施設(救命救急センター)を擁する京都府南部地域の医療を支える基幹病院です。

国から内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設(準ナショナルセンター)、成育医療の基幹医療施設、がん・循環器・感覚器・腎疾患の専門医療施設に指定されており、さらに国際医療協力施設、エイズ治療拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、京都府災害拠点病院といった幅広い役割を担っている高度総合医療施設であることが特徴です。

初期研修では、1～3次まで受け入れるER救急や、38もの診療科が揃っているため、Common diseaseから重症な傷病まで幅広い疾患を経験することができます。救急外来では、研修医一専攻医一救命医&各科当直医の体制となっており、

一人で途方に暮れるということはありません。指導医数も多く、安心して研修に臨むことができます。

当院は研究や学会活動が盛んであることも特徴です。「臨床研究センター」が設置されており、京都大学との関係も深いため、臨床力だけではなく学術的な背景を持ち合わせた医師像を目指すことができます。実際に英語原著論文を執筆した研修医の先生も複数います。

また、診療各科の垣根が低く、気軽にコンサルテーションできる環境も大きな魅力でしょう。

プログラムの特徴について

研修プログラムは、救命救急科と総合内科・総合診療科を必修としたスーパーローテーションと、2年間を通した救急外来での研修を通じて、急性期を中心に一般的な傷病から稀な疾患、軽症から重篤な患者まで、幅広い診療経験を積むことができます。

月5回ほどのER当直(研修医2

～3名、専修医・レジデント1名で担当)があり、救命救急部夜勤医、病棟当直医、循環器内科当直医、脳血管センター当直医らのバックアップのもと、積極的に診療に臨むことができます。初期研修の2年間を通して、救急の初期対応を徹底的に学ぶことができ、幅広い基礎力を確実に習得することができます。

読者へのメッセージ

人に言われたから行動するのではなく、自分の能力を伸ばすために何が必要かを考えて行動してください。そうした意識を持っているかどうかで、初期研修の2年間で獲得できるスキルに大きな差が生まれます。

また、現在はインターネットが発達し、あらゆる情報を入手しやすくなっていますが、それでも人と人の交流だからこそ生まれるものが多くあります。研修医時代にそういったものを沢山つかみ、人間力も高めてほしいと思います。

PROFILE

出身地：京都府
出身大学：滋賀医科大学(2006年卒)
宝 物：家族、苦楽をともにした
研修医時代の同期
座右の銘：献身・誠実・尊重
(ジーコスピリット)

困っている人を心の底から助けたい、チーム医療をしたいと思っている方、医師としての基礎的な臨床能力をしっかり修得したいと考えている方は、是非、当院の臨床研修プログラムに応募してください。歴史ある京都の雰囲気を味わいながら、充実した研修医生活を送りませんか。



国立病院機構 京都医療センター

住所 〒612-8555
京都府京都市伏見区深草向畑町 1-1
WEB <https://kyoto.hosp.go.jp>

病床数 **600** 床 診療科数 **38** 科

京都医療センターの特徴

独立行政法人国立病院機構政策医療ネットワークの中で、内分泌・代謝性疾患の高度専門医療施設(準ナショナルセンター)、成育医療の基幹医療施設、がん、循環器、腎及び感覚器疾患の専門医療施設に指定され、そのほか政策医療としてはエイズ治療・国際医療協力施設として位置づけされている。

VOICE × 初期研修医

主体的に診療に臨むことができる雰囲気の良さも魅力

初期研修医 2年目 丸野 皓平

研修プログラムは自由選択の枠が多く、興味をもった診療科を満遍なくローテーションすることができます。また、指導医・専攻医・研修医の屋根瓦式による研修で、上の先生方と綿密に議論をしながら診療するのですが、どの先生方も指導熱心で、何でも質問しやすい環境です。救急外来では救急医・専攻医の先生方と診療に当たりますが、研修医の意見も積極的に聞いてくださり、主体的に診療に臨むことができます。

当院を研修病院として選んだのは、3次救急病院でもあり重症患者の救急を勉強したかったことも理由ですが、決め手となったのは雰囲気が抜群に良かったことでした。ぜひ一度見学に来ていただき、当院の雰囲気の良さを肌で感じてください。



PROFILE

出身地：京都府
出身大学：京都大学
(2021年卒)
宝 物：家族
座右の銘：情けは人のためならず

国立病院機構

仙台西多賀病院

政策医療、臨床研究、地域密着の医療を推進。

専門性と質の高い充実の教育体制も特徴

仙台西多賀病院 院長 武田 篤

地域で一番、最良で最適な
解決方法を提供できる病院

仙台西多賀病院は、内科・小児科・脳神経内科・整形外科を中心とした医療を提供しており、特に筋ジストロフィー・神経難病・重症心身障害児(者)・骨・運動器疾患などに力を入れています。

当院は時代と地域のニーズに根ざした医療を目指しており、仙台医療圏では急増する後期高齢者に向けた医療体制が不十分であることから、2015年に宮城県内初となる認知症の早期診断、早期介入を行う、「認知症疾患医療センター」を開設しました。

また、脳神経内科では、筋ジストロフィー症やパーキンソン病など神経筋疾患の専門医療を行っており、2020年には「パーキンソン病センター」と脳神経外科を開設し、機能的脳外科手術も院内で実施できる体制を整えました。

整形外科においては、脊椎脊髄疾患治療の専門施設として長い歴史があり、毎年海外から多数の医師が学びに来るほど国内外から高い評価を得ていますし、重症心身障害児(者)医療については北海道東北ブロック基幹施設として小児を中心に専門医療と社会支援を行っています。

リハビリテーションスタッフは私が2013年に着任した当時よりも2倍にまで増員し、2016年12月には神経難病患者などの歩行改善のため、東北で初の医療用下

肢タイプロボットスーツ「HAL®」を導入するなど、リハビリテーション医療の充実も図ってきました。

当院は、脊椎、脳、神経、筋、骨などにおける疾患や障害に対して、地域で一番、最良で最適な解決方法を提供できる病院であると自負しています。

スペシャリストが揃い研究も盛ん
キャリア形成にも優れた環境

当院では一人ひとりの患者さんの人生に寄り添い、じっくり向き合う医療を経験できることが特徴です。認知症、パーキンソン病、筋ジストロフィーといった疾患をはじめ、急性期病院で治りきらず障害を抱えたまま治療、療養を続けなければならない疾患に対する、整形外科、脳神経内科、脳神経外科、リハビリテーションといった分野からの多彩なアプローチ方法を学ぶことができます。

スタッフは非常に優秀であり、脳波・筋電図など神経生理機能検査、MRI、核医学検査といった神経放射線学的検査、そして検査結果の解析といったさまざまな分野のスペシャリストが揃っています。積極的な資格取得も支援しており、リハビリテーション科には、パーキンソン病に特化したリハビリテーションプログラムであるLSVT®の認定療法士を取得した理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が在籍していますし、認知症、摂食・嚥下障害、感染管理

といった認定看護師もいます。

当院には「臨床研究部」が設置されていることも特徴です。新たな治療法の開発に向けて臨床研究を推進し、コメディカルスタッフも積極的に臨床研究に参加しており、2022年は英文による16本の論文発表が行われています。

医師のキャリア形成としては、日本神経学会と日本整形外科学会の教育施設であり、さらに東北大学大学院医学系研究科と連携を結び、2016年度より大学院連携講座(高齢者認知・運動機能障害学講座)を開設しています。私は講座教授を拝命しており、連携大学院に入ることで当院で働きながら東北大学の学位も取得できます。学位取得は、実臨床における課題解決のトレーニングにもなるため、臨床現場でも大きく役立つ大変意義のあるものです。

このように、当院は教育面としても非常に優れ、キャリア形成においても魅力ある環境にあります。さらに、すべてのスタッフが障害のある患者さんの目線に合わせた、丁寧であたたかい診療を心がけているなど、“優しさ”にあふれた病院であることも魅力でしょう。

高齢化が加速し、障害を持つ方や高齢者の医療に携わる意義はこれからますます大きくなります。一人でも多くの若い医師の方に当院でキャリアを積んでいただき、これからの医療を支える医師になってほしいと思います。

国立病院機構
仙台西多賀病院

住所 〒982-8555

宮城県仙台市太白区鉤取本町 2-11-11

WEB <https://sendainishitaga.hosp.go.jp>病床数 **440** 床 診療科数 **14** 科

【診療科目】

内科、脳神経内科、呼吸器科、循環器科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科、脳神経外科

仙台西多賀病院の
ある街

仙台市は宮城県の中央に位置し、伊達政宗公の時代から東北地方の中心都市として発展してきた。東北地方唯一の政令指定都市で、109万人の人口を擁する。周辺市町村を含めると約150万人の仙台都市圏を形成し、商業の中心となっている。高等教育機関が豊富で「学都」としても有名、若年層の人口割合が国内トップクラスである。仙台西多賀病院は、そんな仙台市の西南部、青葉城跡に接する丘陵地にあり、仙台南インターから車で10分、市中心部まで20分と便利などところにある。病院北側には、太白山がそびえ、構内は樹木や四季折々の草花に囲まれ、野鳥が棲息し、療養に最適な環境である。

REPORT

“ 若手医師フォーラム ”

第76回国立病院総合医学会が、2022年10月7日(金)・10月8日(土)に熊本城ホールにて開催されました。今回の大会テーマは「Branding Presence Marketing ～選ばれるためには～」。

多彩な講演やシンポジウムが行われた中、若手医師を対象とした「若手医師フォーラム」が7日に開催され、各自が取り組んできた症例や研究について発表する貴重な機会となりました。今回、多数の応募の中から口演発表で最優秀賞に輝いたお二人の先生に話を伺いました。なお、最優秀賞の先生には副賞として国際学会への参加費用が補助されます。



口演発表「臨床研究部門」最優秀賞 × Dr. Shohei Nomoto

Association between blood pressure fluctuations and visual hallucination in Lewy body disease

宇多野病院 脳神経内科 臨床研究部 野元 翔平

[指導医] 副院長 澤田 秀幸 / 臨床研究部長 大江田 知子

応募のきっかけとテーマは？

研究をブラッシュアップしたいという思いと、ベストプレゼンターを選ぶ大会形式であるということに面白みがあったため、応募しました。テーマはレビー小体病患者における血圧変動と幻視との関連についてです。MRI画像を用いて、辺縁系に着目し、レビー病理の進展が幻視と異常な概日血圧変動の双方に影響を与えている可能性が示唆されました。具体的には、幻視は血圧変動と異常な概日血圧変動、

および辺縁系の広範な萎縮と関連し、辺縁系の広範な萎縮は異常な概日血圧変動とも関連していました。

発表にあたり苦労したことは？

VSRAD®というアルツハイマー型認知症の診断支援ソフトウェアを利用することで画像解析時間を大幅に短縮できましたが100例近くのデータを整理し、解析することには大変で地道な作業でしたが、自分の仮説が検証できた時は非常に嬉しかったです。宇多野病院は、日常

診療から臨床研究まで手厚くサポートを受けられるため、若手医師にとって、非常に恵まれた環境だと思いました。

発表を通して学んだことは？

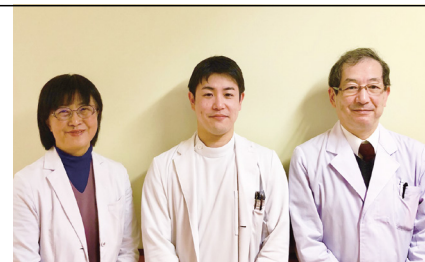
発表後に、座長の長谷川先生から「プレゼン中はアイコンタクトと抑揚を意識したら、もっと発表が良くなるよ」と助言を頂きました。また、他の発表者のプレゼンテーションが聞き入ってしまうほど上手く、とても参考になりました。

将来の夢、今後の予定は？

パーキンソン病を主に、未だ解明されていない病態について明らかにし、患者の予後を良くしたいです。

今後、フォーラムや発表の場に参加を考える方にメッセージを

このフォーラムは、国際的に活躍できる医師を育成する場として、非常に貴重な機会だと思います。是非、積極的に発表に参加して、多くの批評を頂き、日常診療や研究の励みにしていただければと思います。



口演発表「症例報告部門」最優秀賞 × Dr. Tomoyoshi Ota

Deep brain stimulation of the posterior subthalamic area and ventral intermediate nucleus for severe tremor: A case report

西新潟中央病院 機能脳神経外科 太田 智慶

[指導医] 臨床研究部長 福多 真史

応募のきっかけは？

国際学会での発表経験が豊富な上級医に「今後のためにいい練習の機会になるよ」と勧めてもらったことがきっかけです。

口演のテーマとポイントは？

脳腫瘍が原因で顎や頸部、上下肢に高度の振戦を認めた患者さんに対して、脳深部刺激療法を施行して著明な振戦の改善を認めた経験をテーマに発表しました。症候性の振戦に対する脳深部刺激療法

は効果に乏しいことが多く、経験症例では従来の標的に加えて最近注目されている標的も同時に刺激したことで、より高い振戦抑制効果を認めたことがポイントです。「振戦」という視覚的にわかりやすい症状が改善した発表であれば、脳外科以外の先生方にも理解してもらいやすいと思ったからです。

英語での発表で感じたことは？

英語スライドは聴衆の方が読むのにも時間がかかるので、文字数

を極力減らすようにしました。またアニメーションを効果的に使い、直感的にわかりやすいスライド作りを心がけ、発表時はつたない英語でも伝わるように、感情をこめた抑揚や、ジェスチャーも意識的にいれました。スムーズに話せるようになるまで100回ぐらいい練習しました(笑)。

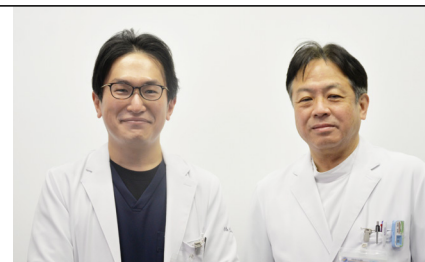
発表を振り返って、感想は？

最優秀賞をいただけたことが自信になり、今年の夏にアイルラン

ドで行われる国際学会で発表することを決めました。苦勞を乗り越えると新しい世界がみえることがあると思いました。

将来の夢、今後の予定は？

診療のスキルを向上、また機能脳神経外科の領域でまだ分かっていないことを少しでも解明できるように、研究活動も頑張りたいです。「どんなときでも、患者さんのためになっているかを常に考える」ということを大切にしています。



BACK NUMBER × バックナンバー

過去の「NHO NEW WAVE」が
WEB サイトから閲覧できます！

https://nho.hosp.go.jp/education/education_nho.html

NHO ニューウェーブ 検索



NHO

facebook & twitter

本部公式アカウント

facebook

<https://www.facebook.com/nho.headoffice>



twitter

https://twitter.com/nho_headoffice



本部のSNSで発信したい情報があれば広報係までご相談ください！